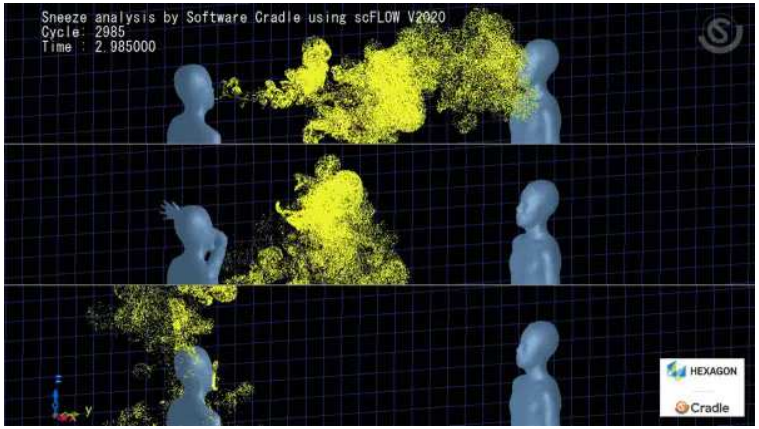
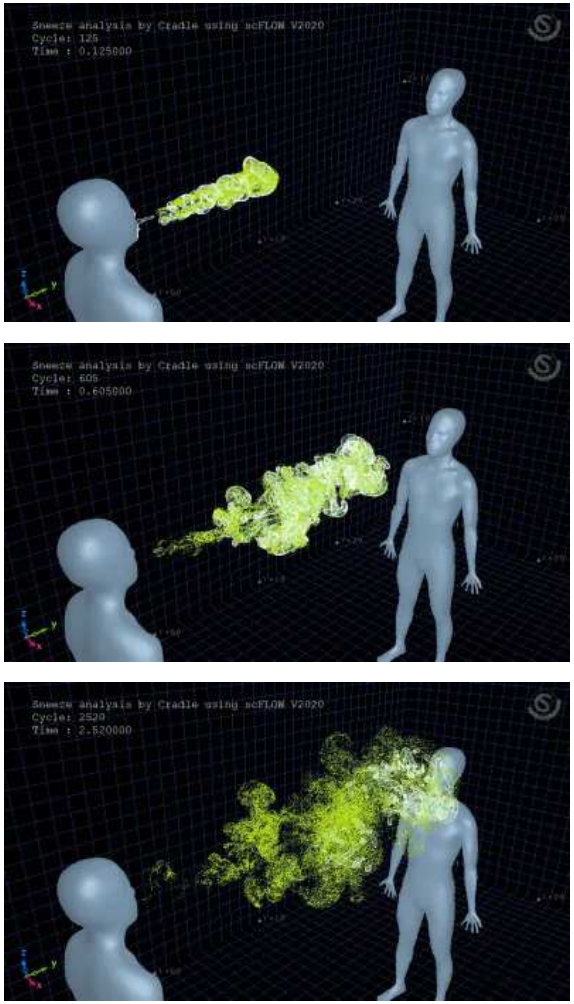
Date/Title	2020/4/23-1　数値シミュレーションで見るマスクの効果
記事名称	マスクの効果、流体解析で見えた　コロナ飛散を抑制
発信者	日経クロステック
発信日	2020/4/22
概要	＜記事抜粋＞ 熱流体解析ソフトウエア開発を手掛けるソフトウェアクレイドル（大阪市）の解析ツール「scFLOW（エスシーフロー）」でくしゃみの様子を解析した。（1）口元を全くカバーしない場合と（2）肘で口元をカバーした場合（3）マスクを着用した場合を比較して計算。 ■ マスクすれば前に飛ばない 計算結果では、(1) の口元を全くカバーしない場合、唾液の液滴を想定した微粒子は、くしゃみの空気流に乗って約 2.5 秒で 2 メートル離れた所に到達した。これに対し、（2）の肘で口元をカバーした場合は、くしゃみの空気流は肘で上下に分かれ、微粒子の到達距離は約 1 メートルだった。 （3）のマスクを着用した場合は、微粒子はマスク周囲の隙間から上下方向に吹き出すものの前方にはほとんど進まず、くしゃみをする人の周囲にとどまる結果になった。　———中略 「単純な条件でのシミュレーションであり、本来は外部気流や体温による上昇流の影響もあるはずだが、計算によってマスクで少なくとも液滴の飛散距離は大きく抑えられることを確認できた」という。  ※上は（1）口元を全くカバーしない場合、中は（2）肘で口元をカバーした場合、下は（3）マスクを着用した場合

自治会員のためのコロナウイルス対策
— PCC通信 Personal Combat to COVID-19 —
https://hi373jichikai.net/
スマホからも↑
個人でできるコロナウイルス対策情報集

概要	■ 口元を全くカバーしない場合の微粒子の飛び方  ※圧力の低い渦と共に飛ぶために微粒子が拡散せず、約 2.5 秒後に 2 メートルの距離に到達する
詳細は URL へ	https://www.nikkei.com/article/DGXMZO58017760U0A410C2000000/
備考	